

金田町人の動き

(12月1日現在)

世帯数	2,650
人口	9,543
男	4,683
女	4,860
出生	11
死亡	5
転入	22
転出	22

かなだ

第 193 号

金 田 町 報

発行所 金田町役場総務課

編集兼 藤 川 義 臣
発行人

印刷所 栗 林 印 刷 所

電話 (09474) ② 0506番

年頭の挨拶

金田町長 大島 陸 雄



昭和五十六年の新春を迎え、町民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

私は、昨年十一月二十三日の町長選挙におきまして町民の皆様を初め各方面の力強い御支援によりまして当選の栄えに浴し町政を担当することになりました。

私はこれまで約十七年間に町議会議員として町政の一端に参画して多くの住民にお会いする機会がありました。選挙の洗礼を受け、立場で町民に直接触れ合い生の声を聞いてあらためて政治を志すもの、の自覚と町民が何を求めているかを身にしみてひしひしと感じます。共に町長の責務の重大さを痛感いたしている次第であります。住民の信任に答え町勢振興を図るには、住民本位の民主的な基本姿

勢に立つて常に住民の総意を反映した行政を進めなければならぬと考えております。しかしながら今日本経済は昭和四十八年秋のオイルショックをきつかけとする長期不況で税収が落ち込む一方、景気対策に伴う財政支出の増大等によって国、地方を通じて、ここ数年来巨額の財源不足に陥っており今後においても引続き同様の事態が生ずるものと思われ、このように社会経済の急速な変化と地域社会の激しい変動に対応しなくてはならない、誠に厳しい難局にはう着しているのが現況であります。

そこで我が町が当面最大の課題として採り上げて行くべきは、赤字財政を如何にして再建して行くかであり、

内容を分析して見ますと

ここ数年間単年度収支は年々赤字の累積で増大し借金で肩代りしてまいりましたが、昭和五十五年度におきましてはその借金すら制限を受ける状態となり三億円に近い赤字が予想されます。この大きな原因は、無計画による各事業の施行を行い健全な真付財源の確保がなく多くの起債(借金)に依存した結果であります。従って標準規模約十億二千五百万円の二〇パーセントをはるかに超え、赤字再建団体に転落することは火を見るより明らかな現状であります。若し再建団体の指定を受けると、自主性がなく国の指示通りの形にはまった行政施策となり、あらゆる事業の抑制はもとより各団体への補助金の削減或は人件費は正で、住民福祉行政の低下等々町民に及ぼす影響は堪大なものがあろうかと存じます。

そこで私としては、どうしてもこの事態を回避しなくてはなりません。それは私を初め町職員と議会並びに町民各位の三者が一体となって、自主再建に懸命の努力を傾注すべきと思っております。

その一段階として機構の改革を行い従来行なわれていた場当たり式行政の施行を廃し、計画的な企画立案を行いこれに重点的に予算の配分をな

りたいと存じます。そうした重点目標を推進するに試行的に新年から企画財政課を設けたことで厳密に事業と財源をチェックして行くスタッフを充実して行きたいと存じます。

一方現行財政制度の諸問題改善については、上部機関(国、県等)に対し坐り込みしてでも強力に要請し財源確保に最大の努力をほらいたいと存じます。

次に長い間関係地域住民がひとしく願望し一日も早く実現解決を期待していただいております。諸問題について私の所信を明確に表明しておきたいと存じます。

第一番目に、二区における社有地の個人私下げにつきましましては皆様ご承知のように拾数年金田上水道との関連で政治問題化し今日迄放置されて参りし大きな懸案事項であります。幸い土地所有者であります富見鉦業さんが私に協力して頂くこととなりました。従って一区より二区の末端迄逐次私下げが進められます朗報としてお知らせ申し上げます。

第二番目に、町部四区の鉦業認定につきましましては、道路や下水路の関連で採り上げて参りましたが、これでは多くの家屋の認定は困難性があります。従って三四四鉦区権者である吉田鉦業さんの有資力を取り崩し

無資力にすることが先決問題であります。これにつきましても協力を願うことを確約頂きましての四区全体の鉦業復旧も早急に解決できるものであります。

第三番目に、堀川の国鉄引込線敷地の町への私下げについても、今迄拾数年吉田鉦業さんの専用線問題で未解決でありましたが、これにつきましても近く相互理解の下に話を進め、早期解決を図り地域の振興発展に寄与できるものと確信いたします。

その他として、広域行政の一環である環状線(赤池・金田・田川線)の開設事業につきましましては、今後継続的に工事を進めさせます。これが完成のあかつきには神崎南木の開発を行う幹線道路として重要な役割を果たすものであります。地域住民と十二分に協議し農林業の振興はもとより日旺山ろくを中心とした緑豊かな公共施設整備等の構想を実現して参りたいと存じます。

次に労働四事業の施行は勿論多くの残事業をもつ同対策事業(特に社会教育の推進強化)の施行や、労働市場の確保を図る企業誘致につきましても、積極的に運動を進め参りたい。また町部の交通量の緩和を図るため彦山川右岸金田川合流点に広域行政として

田川市に相談し興事業で架橋の完成を期したいと努力して居ります。これら幾多山積する諸問題の早期実現に懸命に取り組んでまいり所存であります。

しかし私一人が如何に力んでも町民各位の協力と支援がないことには、微力の私ごときは何一つとして出来るわけがありません。私に仕事をさせるもさせないも町民各位の胸三寸であります。

私は誠心を傾けて事に当りますから何卒皆様方も私の悪い処はどしどし指摘して頂き御指導下さるよう幾重にもお願いいたしました。年頭のご挨拶といたしま

1月のこよみと行事

和名 睦月(むつき)

年のはじめに家庭や多くの人がびとがたがい睦みあいをかきかねることを略したもの。

- 1日 元日・初詣
- 2日 初荷、書初め
- 5日 官庁御用始め
- 7日 七草粥
- 11日 下田川消防出初式
- 11日 鏡開き
- 15日 成人の日
- 16日 乳児検診
- 28日 心配ごと相談